



Will On This Week / Kiyosen Ohashi

第242回

北朝鮮に行けば良い石破茂 日本の恥として居座る猪瀬 日本人の劣化が進んでいる

ボ クの病気の状況から。手術後6日目の27日に抜糸(糸といっても今は小さなホツチキスのようなもので止めてあるだけ)、翌28日に退院となった。抜糸したその日からシャワーを浴びてよし、しかも傷口に石けんをつけて、手でごしごし洗って下さい、と言われた。「手」が重要で、スポンジや布でこすってはいけません。手で洗って早くカサブタを取ってしまった方が良いとの

こと。現代医療の進歩には、ついて行かねばならない。
この手術は転移していたリンパ節のがんを取ったもので、扁桃腺に出来た大元のがんは、これから放射線で攻撃する。12月第2週から始まる予定だが、始まると終るまで、アルコールと温泉、刺激物など、いろいろダメなものが出てくる。温泉がダメとは？と首をかしげたが、これは温泉に含まれるいろいろな成分の中に、放射線の効果を妨げたり、副作用を生ずるオソレのあるものがある可能性があるからというのだ。そこで退院の翌日から1週間、九州の温泉地に行くことに決めていた。ご近所の医師で親交のある谷本篤夫妻がつき合ってくれる。
何はともあれ、熊本へ来た。ここは半世紀前に、労音の仕事で来て以来である。サダオちゃん(渡辺貞夫)をフイチュアした、八城一夫カルテットのコンサートであった。モダンジャズを解つてもらうのに解説に苦勞した憶えはあるが、有名な馬刺しの記憶がない。さすがに「世界」と豪語するだけあっておいしかったが、残念ながら歯の方が負けている。現在手術の後遺症で、細かく噛んでからでないと、ノドを通りにくいのだ。

も熊本の馬刺し屋さんには、パロイロのワインがあったのには驚いた。次の日は天草へ。熊本から三角まで、週末だけ特急が出ている。その名は「A列車で行こう」。ホームにつくと、そのデューク・エリントンの名曲が聞えている。半世紀で世の中変つてよ、サダオちゃん!! 待望の有明海の海鮮料理にありつく。谷本先生の大学の同級生の中野医師御夫妻に、思わぬ御馳走になってしまった。刺身もそうだが、車エビの天ぶらが絶品であった。ここには偽装問題などない。目の前の湾で養殖した、日本一の車エビ(われわれ江戸っ子は小さいものを、サイマキと言って珍重した)である。この天ぶらは何と頭もついているが、大きいのに甘い。
食品偽装問題は、付加価値をつけて金もうけしようという、現代の資本主義が生んだ、卑しい犯罪である。本来食べもののおいしさというものは、そのもの本体にある筈で、付加価値はあくまで付加されたものの筈である。それがいつの間にか、その方が上位に来るようになった。ポクなどは、その句を食べに行く方であるが、消費者は宣伝に乗せられて、「何処何処産の」というキャッチフレーズ

ーズに金を払うようになった。よく考えれば解ることだ。「何処何処産」の冷凍ものより、無名のどれたての方がおいしいのだ。それがいつの間にか、すり替ってしまった。「自分の味覚で選ぶ」より、宣伝文句の付加価値に左右されるようになった。哀しいことだ。すべては自分の価値判断を失い、他人の評価に頼る——それにつけ込んだ資本主義である。

そ ういう点で、今夜泊る「天空の船」というホテルには感心した。僅か15室のホテルだが、天草の真ん中で、イタリアン・デザイナーがついている。これがいけた! 何の付加価値もなく、地元の野菜や海産物、肉などを使ったイタリア料理である。ゆつくり温泉にも入れて、大分良くなった気がしている。「食品偽装」に代表される、近年の日本の社会問題は、日本人の劣化が原因のようだ。

しかし「劣化」は、政治の世界において、最も顕著である。猪瀬都知事の名前を書くさえ、おぞましい。以前鳩山由紀夫元首相が、富豪の母親から億というお金をもらっていた、と問題になった。しかし実の母親である。金額が違い過ぎるだけで、行為自体は解る。

しかしこの醜い都知事の場合は、理解が行かない。一度も会ったことがない(二度会ったという報道もあった)、アカの他人から、特に必要のない5000万円という大金を、期限も利息もつけずに借りるか? そんな人は日本中に一人も居まい。記者団の前で、そんな事を平気で言える事が正気



絵/松本圭以子

の沙汰ではない。居座りたければ居座れば良い。ポクの外国人の友人ではないが、世界中の人が「何て醜い」と彼を見ている。心して欲しい。一日でも長く居座れば、それだけ日本を傷つけている。
自民党の石破茂幹事長の「絶叫するデモは、民主主義と相容れない。テロ行為と同じ」という発言

も(あとで撤回したが言った事は残る)、開いた口がふさがらなかつた。もともと「軍事オタク」としてしか知られなかつた政治家である。それが自民党のヒエラルキーを昇って、幹事長にまでなった。組織はやがて無能な人で埋め尽くされるという「ピーターの法則」で、馬脚を現わしたのだ。「民主主義は、理解者を一人ずつ増やし、支持の輪を広げてゆくもの」というこの男の言葉の裏には、多数を握った権力者の驕りが見える。
民主主義はそんなものではない。たった一人で大声で主義主張を述べる権利をわれわれはもっている。「君の意見には百パーセント反対だが、君がそれを述べる権利は、命に代えても守る」という、ヴォルテールの言葉にこそ、民主主義の根源が見える。残念ながらわれわれは、ヴォルテールとは対極に居るような男を、巨大与党の代表者にもつてしまったのだ。あつ石破さん、貴方にとって理想的な国家が近くにありません。大声どころかデモひとつない北朝鮮へ行かれたらいいかがですか。ゆつくり眠れますよ!?

